

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	和泉市立南池田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	30
児童数	97	86	90	107	98	93	3	574	

研究の概要

1. 研究主題

児童一人一人の実態に基づいたきめ細かな授業や、個に応じた指導を行うことによって、基礎・基本の確実な定着、学力の向上を目指す。そのための少人数による授業の形態や効果的な指導法の研究を進める。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・3,4,5,6年生を対象とし、算数科を中心に取り組む
理由...積み上げの教科であるため。特に3年生からは基礎的な内容に加え発展的な学習内容が多くなり、児童の理解の状況に差が出やすいから。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着と学力の向上を図るためのより効果的な少人数編成や指導法のあり方 課題 基礎・基本の定着を図るために、児童の学力の実態を把握し、それに見合った効果的な学習形態や指導体制の確立 習熟度に応じた学習指導法と学習材、学習具づくり 研究内容・方法 (1)学力の実態把握及びその分析 「計算力到達度テスト」の実施及び結果の分析 2～6年生で、4月・12月に実施。2月末に学力調査を実施する予定。 本校児童の学力の実態及び課題の把握、課題克服の手だて。 (2)基礎・基本の定着を図るための取り組み 「ぐんぐん週間」(計算問題など)の継続及び工夫 原則として毎月第1週を当てるが、4月は第3週、9月・1月は第2週を当てる 計算のつまずきを授業や課外の中でどう克服していくか。(校内体制の確立) 1、2年生は、T・Tで基礎・基本の定着を図る。 毎週金曜日を「補充学習の日」として、放課後、特に支援を必要とする児童への指導を行う。(全学年で取り組む。) (3)少人数授業の編成及び実施上の工夫(単元によっては一斉指導も取り入れる) 単元別の少人数授業編成についての年間計画を作成 少人数授業編成の方法として 学級単純2分割 学年4分割、5分割 習熟度別少人数授業(じっくりコースとどんどんコース) 5年生は習熟度による5分割少人数授業(マスターランド) 課題別・習熟度別少人数授業 課題別・習熟度別少人数授業は、3年～6年で学期末や学年末に</p>
--------	---

実施する。実施に当たっては、校長・教頭を含む担任外の教員が応援に入る。

課題別少人数授業

6年生は、5月（家庭訪問期間）と2月に課題別少人数を実施する。

(4) 習熟度別少人数授業の取り組み

習熟度別少人数授業

(1) 取り組みの経過

(a) 「じっくりコース」と「どんどんコース」といったような2つのコースのいずれかを児童自らが選択し、習熟度に応じた学習指導を行う。

(b) 3年生は「かけ算2」、4年生は「わり算2」（いずれも2学期の単元）、5年生は「小数」（1学期）から、それぞれ習熟度別少人数授業に入った。

(c) 本校校内研修のテーマ

「習熟度に応じた指導法と学習材づくりーとりわけ支援を必要とする児童にどのようにして基礎・基本の定着を図るかー」

(d) 習熟度に見合った指導法

「じっくりコース」と「どんどんコース」での指導内容がまったく同じでは、習熟度別に分けた意味がない。そこで、習熟度に見合った指導法の工夫（個に応じたきめ細かな指導）が必要になってくる。

(II) 習熟度別少人数授業の導入に当たって留意してきたこと

(a) 習熟度別（コース別）授業のもつ意味について児童に説明し、理解を持たせる。

「自分の苦手とする計算をなくすためのコース分けである。」という取り組みの趣旨を児童に理解してもらうためのオリエンテーションを行う。

(b) コースは児童自身で選択することを基本にする。

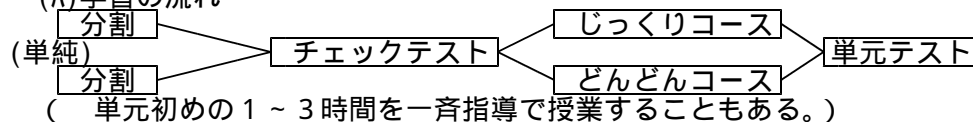
(c) コースのメンバーは固定しない。担当者も固定しない。

(d) 決して能力別授業ではないことの共通理解。コースの呼び方も配慮した。

(e) より効果的な単元で実施する。

(f) 保護者の理解を得るために、授業の参観の機会を多く持ち、機会あるごとに保護者への啓発を行う。（「学校だより」、「学年だより」等で）今年度は、毎学期、3年～5年生での授業参観で実施、また、校内の研究授業も保護者に公開した。

(III) 学習の流れ



課題別・習熟度別少人数授業の取り組み

児童が不得意とする課題をいくつかのコースに分け、毎日1時間で1週間設定。昨年は3～6年生で、今年度は5年生で2回実施し、学年末に3～5年生で実施予定。

特に、教師の支援を必要とする児童への手だてを重点とし、支援を殆ど必要としない児童への発展学習としても位置付け、短期集中型授業として設定。その児童に合った課題での学習ができ、意欲へとつなげることができた。

担当は、担任と少人数担当、課題数によっては専科、教頭（校長）が当たる。

(5) 課題別少人数授業（算数オリエンテーリング）

課題別少人数授業（算数オリエンテーリング）は、課題をいくつかのコースに分け、算数強化週間として、昨年も6年生で2回実施。

8～9の課題（整数・小数・分数・整数の性質・図形・面積・割合・比と比例・表とグラフ・文章題・難問等のコース）を設定し、オリエンテーリング形式で自分が挑戦したい課題からスタートし、合格できたら次のコースへ移動していくというやり方。

家庭訪問期間に、毎日1時間の1週間と、卒業前の2月に1週間の2回実施。

家庭訪問期間は、担任以外で担当し、学年末には担任・少人数担当・専科・教頭(校長)で担当している。

平成15年度

テーマ
基礎・基本の定着と学力の向上を目指す少人数指導法及び授業の工夫
課題
習熟度に応じた学習指導法の定着及び指導法の工夫改善、学習材の開発
わかる授業、楽しい授業の創造。「算数が好き」という児童が増える授業の工夫。

研究内容・方法
1 4年度に引き続き、習熟度に応じた指導法の研究を進める。
学年別・単元別に、効果的な指導法について学年研修を行い、全体研修会でその成果を交流し、研修を深める。
ヒントカードや効果的な学習材を準備することによって、常時、教師が活用できるよう整理保管する。
分かりやすい、楽しい授業の導入や展開例の実践交流と蓄積
具体物・ホワイトボードを使う、図や絵に表す、体験的活動を取り入れた授業の工夫の研究
上記を踏まえた校内研究授業に取り組む
実践研究の報告及び研究発表(11/12 実施)

平成16年度

テーマ
学力の質を高める授業のあり方
課題
個に応じたきめ細かな学習指導法の工夫改善及び学習材の開発
自力解決学習を目指す
・自ら課題を見つけ、自ら課題を解決していこうとする力の育成
・自らの力で論理的に考え、判断する力の育成
・自分の考えや思いを的確に表現する力の育成

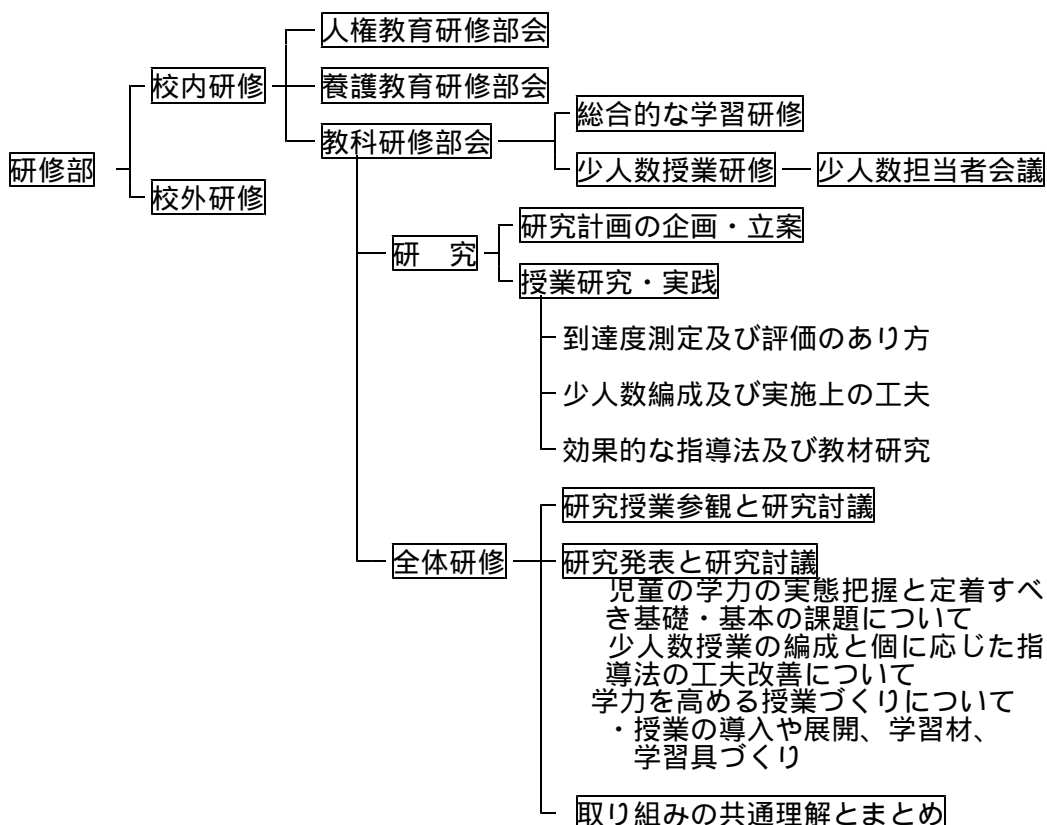
研究内容・方法
個に応じたきめ細かな指導法の活用と改善
一人一人の学力の実態などを記録した学習カルテづくり
学力の質を高める授業研究
・算数を通して学習への自信を持たせる。
・自分の考えを人に分かるように説明したり、表現方法を工夫させる。
・教え込みではなく、ホワイトボード等を使って児童の多様な考えや計算方法が引き出せる授業に取り組む
授業の導入や展開例の実践交流及び研究授業による研究の検証
実践研究のまとめ及び研究発表

(3) 研究推進体制

校内体制

- (1) 各学年1名と担任外1名、少人数担当者3名で教科研修部を構成。少人数担当者会議で作成した原案をもとに、研修や実践の課題や研修計画について検討し、学年研修や全体研修などで深める。
- (2) 授業の進め方や教材研究、ワークシートや学習材・具づくり、そして指導形態や内容について、学年ごとに少人数担当者との話し合いを持ち、基礎・基本の定着と学力の向上に向け、少人数授業の編成法や指導法の改善に努める。

組織図



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

本校では研究を進めるにあたり

- ・学力の実態把握
- ・基礎・基本の定着
- ・授業形態の工夫
- ・学習の質を高める

の4点について大切にしてきた

1. 学力の実態把握、基礎・基本の定着を図る取り組みから

到達度テストの結果から

学年末に全単元を網羅した到達度テストを実施し、定着しにくい問題や単元をピックアップし、次年度重点的に取り組んでいる。

(下の表は平成14年度末の到達度テストの結果、重点的に取り組んだ単元での15年度との比較)

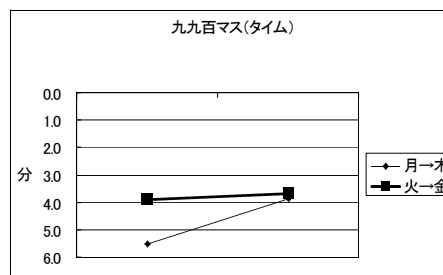
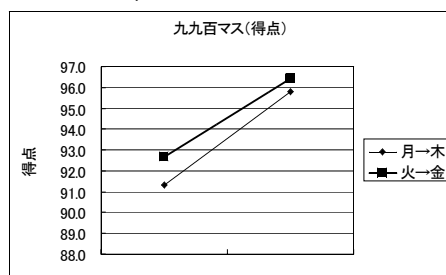
学年	内 容	平成14年度 正答率(%)	平成15年度 正答率(%)
2	繰り下がりのあるひき算	77.5	83.5
	九九	96.5	99.5
5	小数のかけ算	89.3	91.0
	小数のわり算	60.8	69.5

また、毎月1回の「ぐんぐん週間」では、次時での学習内容の予習や

- ・次単元に思い出して欲しい学習
- ・定着しきれていない学習
- ・前単元の復習

など児童の実態にあった練習問題を実施し、算数の授業にスムーズに入れるよう工夫している。

また、繰り返し学習することで学習の定着をはかっている。例えば、今年度の3年生で6月に1週間、かけ算九九の百マス計算に取り組んだ。月曜と木曜、火曜と金曜は同じ問題だったのだが正答率、タイムともに上がっていた。(グラフ参照)

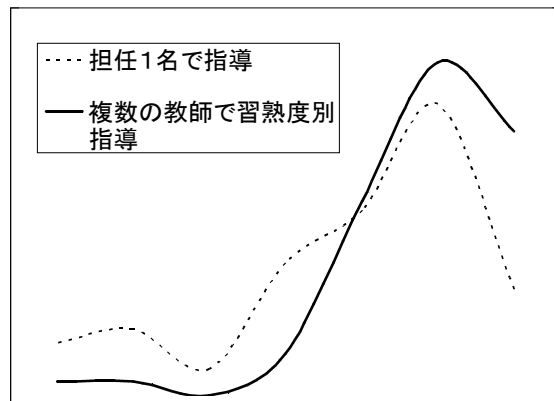


授業形態の工夫から

T・T、単純2分割、習熟度別分割、課題別分割、課題別・習熟度別分割など児童の実態や理解度に応じて、学年・単元ごとに授業形態を工夫している。

6年生の「単分量あたりの大きさ」の単元では、昨年度一斉授業で、今年度習熟度別2分割授業を行った。

テストの結果、一斉授業の場合は人数分布の山が3カ所(低、中、高得点)できているのに対して、習熟度別2分割授業の場合、高得点側に1つの山ができていた。2分割で授業をしていると、特に学力的に中間層の児童が活躍し、その結果がテストに現れているようだ。



学習の質を高める取り組みから
 「問題解決(自力解決)学習」を取り入れたり、単元の導入を工夫するなど、
 わかりやすい、楽しい授業を創るために研究を重ねている。
 特に単元の導入では、

- ・具体物の操作
- ・体験的活動
- ・問題解決学習

などを取り入れ、児童が新しい学習内容に対して「難しそう」といった印象を
 持たず、「面白そう」「今まで習った方法で解けるんだ」というふうに自信を持
 てるようにしている。

2. 今後の課題

1. 基礎・基本の定着

一度学習した事を忘れてしまう、定着しにくいといった事について、授業の
 工夫、ぐんぐん週間や補充学習等で継続して取り組んでいかなければいけな
 い。

児童一人ひとりに見合った指導や助言等研究していく。

2. 研究のまとめ

効果的な指導法、授業形態等について整理し、次年度以降も活用できるよう
 研修を重ね、まとめていく。

・学習内容に応じた効果的な学習形態

・単元内での指導形態の工夫(T・T 習熟度別分割、単純分割 習熟度別分
 割、第何時より分割等)

・導入の工夫

・効果的な問題解決学習の導入等

学力等把握のための学校としての取組

- 1.到達度テスト(学年末実施)
 - ・当該学年での学習内容全般
 - ・それぞれの学年で理解度の把握
 - ・児童が苦手になっている、定着しにくい単元、学習内容の把握
 - ・理解度の低い単元や学習内容があれば次年度重点的に指導する
 - ・児童個々の苦手としている内容を把握し、個に応じた指導の資料とする
- 2.計算習熟度テスト(4,12月実施)
 - ・前学年の計算領域のみ
 - ・同じ問題を2回し、定着率を把握する
 - ・児童個々の苦手としている内容を把握し、個に応じた指導の資料とする
 - ・全体的に定着率の低い内容については、ぐんぐん週間や補充学習などで継続して学習する。
- 3.チェックテスト・アンケート
 - ・習熟度別分割の前に実施
 - ・それまでの学習内容や、分割するにあたってポイントとなる問題など
 - ・分割前までの学習内容についてのアンケート
 - ・どのコースに行きたいか、また、先生に相談するかのアンケート
- 4.保護者へのアンケート
 - ・授業参観で少人数授業の実施
 - ・校内研究授業や研究発表の参観
 - ・参観後、アンケートを実施し、結果は『少人数だより』で報告する
 - ・質問などがあった場合は、その都度『少人数だより』で回答する

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成 14 年度末に 2 年間の研究実践と課題について冊子にまとめ
市内小中学校に配布
- 平成 15 年 11 月 12 日 泉北地区学力向上推進協議会開催
- ・ 3,4,5 年生の算数科で習熟度別少人数の公開授業
 - ・ 研究報告
 - ・ 講演会「少人数指導について」
大阪府教育センターカリキュラム室室長 芝田 秀和氏
- 平成 15 年 5 月 20 日 忠岡東小学校少人数担当者 来校
- 平成 15 年 6 月 27 日 高槻市教育センターで少人数の取り組みについて報告
(少人数担当 3 名)
- 平成 15 年 12 月 9 日 泉大津市少人数指導担当教員連絡会に講師として参加
(少人数担当 2 名)
- 平成 16 年 2 月 27 日 和泉市小中学校教務主任会において報告

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無